和歌山県地球温暖化対策情報誌

わおん通信

2015 冬号 vol.19

特集

子どもたちに未来をつなぐ
～ESD 持続可能な開発のための教育～

CONTENTS

P2－P3
県内地域の取り組み
初出展で高い関心
手を動かして自然体験
南紀熊野で環境イベント開催
速報 パリ協定採択
第５回 推進員マッちゃんの
あ～したら、こ～なった！

P4－P5
子どもたちに未来をつなぐ
～ESD 持続可能な開発のための教育～

P6 県情報
わかやまこどもエコチャレンジ

P7 推進員さん訪問記⑮
なるほど　ザ・ワード

P8 INFORMATION

初出展で高い関心

2015年10月10日
「第29回弁慶まつり」

［田辺市・カッパーク］

毎年田辺市で開催される弁慶まつりに県の環境生活総務課と合同で、環境教育ツールの紹介と家庭の省エネ診断を行いました。弁慶まつりは大々的に行われる市民祭りで、主にダンスコンテストや飲食などが中心のイベントです。今回は初めての出展ということもあり、生活改善の啓発活動をメインにしたブースにどのくらいの来場者があるか不安でしたが、メイン会場までの通り道であり、また抽選会の引き換え会場近くであったことなどから、大勢の方に来ていただきました。

あいにくの空模様のため、ソーラークッカーの実演はできませんでしたが、省エネ診断をメインに活動しました。この日はオーダーメイドの診断結果を持ち帰ってもらうために用意したプリンタの調子が悪く、受診者が限定的になってしまいましたが、概ね満足いただけた様子でした。

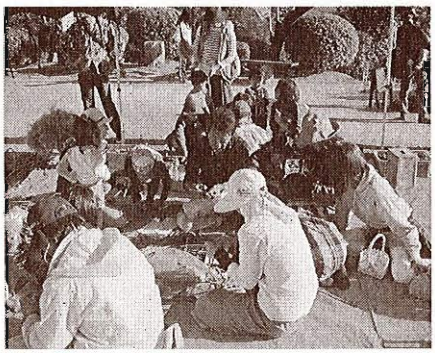
お楽しみもりだくさんのおまつりでしたが多くの皆さんに知っていただける貴重な機会であり、引き続き来年も参加できるよう準備していきたいと思いました。

（推進員　多田　祐之）

手を動かして自然体験

2015年10月25日
「第24回ナチュラル・ブレイク」

［杉村公園・橋本市］



橋本市の杉村公園において開催された、自然に親しむイベントに今年も参加しました。今年はわかやま環境ネットワーク、伊都・橋本地球温暖化対策協議会、はしもと里山学校の共同参加となり、地球温暖化防止についてパネルでのPR、ソーラークッカーによる太陽熱での調理、手回し発電機による発電体験、シュロのバッタづくりのクラフト教室、出張省エネ診断等を実施しました。ソーラークッカーや手回し発電機では、太陽熱の利用や発電のしくみや電気の働き、バッタづくりでは自然に親しむことでの環境の保全の必要性のPRなどに、たくさんの子供たちが集まって体験してくれました。また、簡易診断ソフトを使っての家庭の省エネ診断を実施し、平均家庭との比較や省エネ対策の提案を行いました。年々定着しつつある定期イベントに出展し、地球温暖化防止に向けた啓発活動を続けていきたいと思います。

（推進員　黒井　成男）

南紀熊野で環境イベント開催

2015年11月7日
「南紀熊野で環境イベント開催」

［和歌山県情報交流センター ビッグU（田辺市）］

南紀熊野にある自然体験学校や自然保護団体など、さまざまな環境団体がつながるイベントとして田辺市内で開催されました。会場ステージのフォーラムでは「天神崎の自然を大切にする会」の玉井済夫氏のトークをはじめ、4名

の講師が〝子どもの自然への感性を育むために〟というテーマで講演が行われました。また展示コーナーには、去年日本ジオパークに認定された「南紀熊野ジオパーク」や、田辺市・みなべ町まで指定範囲が広がった「吉野熊野国立公園」などの出展がありました。温暖化防止の現状と行動をPRするため県センターも出展。パネル展示のほか、前岡推進員による温度差発電装置の実演も行い、来場者は関心を寄せていました。

速報 パリ協定採択

COP21で歴史的合意

フランスのパリで開かれていたCOP21は12月12日に「パリ協定」を採択、京都議定書以来18年ぶりに、法的拘束力のある地球温暖化対策の世界的枠組み構築で合意しました。

同協定は産業革命前からの気温上昇を2度未満にし、1.5度以内に抑える努力をすることを長期目標として、すべての締約国が国別目標に従い温室効果ガスの削減行動や温暖化による被害軽減適応策に取り組むとともに、5年ごとに目標と行動内容を評価し見直す仕組みなどを組み込んでいます。また、別に採択された決定文書には、途上国支援のため2025年までに1000億ドル（約12兆円）を下限とする新たな資金の目標を設定することが盛りこまれました。

これらは、地球環境の深刻な危機を前に、国益をめぐるギリギリの交渉を経て各国が協調して得た到達点であり、残された課題はあるものの脱炭素社会への礎石を据える世界史的な成果といえます。

第5回 推進員 マッちゃんの あ～したら、こ～なった！

「チリもつもれば何とやら・・・」。

２００９年５月に設置した我が家の太陽光発電（５.６ｋｗ）は早いもので６年を経過しました。累積売電量は４万ｋｗを超えていて、メガソーラー発電所の１週間分くらいにはなりそうです。毎月平均５００ｋｗの売電が、「昼間には周囲の家２～３軒分くらいを賄っている」と思えて嬉しくなります。他の家より売電量が多いのは家族が一人減って、一匹の猫と私のみの生活だからです。買電量は同期間で１万ｋｗ余りです（灯油は年間で１８ℓ×１４本の消費、オール電化ではないがガスも使っていない）。

さて、自称〝４０年間外食男！〟の私は２００５年よりマイ箸を持っています。年間約３００本以上の割りばしを節約したとして、もう３０００本以上の削減となりました。またファーストフード店等にも週２回くらいは通いますが、トレーに敷く紙やドリンクのキャップ（正式にはリットという）を断っています。これらも累計で１０００枚・個くらいの削減になっていると思います。

尚、小生は岩出市内の行動にはほとんど自転車を使用、車（１６年目の中古ハイブリッド・カー）の年間走行距離は３０００キロにおつりが来ます。

このコーナーでは推進員の方々の CO_2 削減活動を募集しています。ぜひ、「私はこんな活動をしました」という声をお寄せください。

子どもたちに未来をつなぐ

～ESD 持続可能な開発のための教育～

ESD とは

ESD は、Education for Sustainable Development の略で「持続可能な開発のための教育」と訳されています。

現在、世界には、環境・貧困・人権・平和・開発といった様々な地球規模の課題があります。

ESD とは、地球に存在する人間を含めた命ある生物が、遠い未来までその営みを続けていくために、これらの課題を自らの問題として捉え、一人ひとりが自分にできることを考え、実践していくこと（think globally, act locally）を身につけ、課題解決につながる価値観や行動を生み出し、持続可能な社会を創造していくことを目指す学習や活動です。

つまり、ESD は持続可能な社会づくりの担い手を育む教育です。

ESD の考え方

ESD の学習や活動で取り上げるテーマ・内容は必ずしも新しいものではありません。むしろ、それらを ESD という新しい視点から捉え直すことにより、個別分野の取組に、持続可能な社会の構築という共通の目的を与え、具体的な活動の展開に明確な方向付けをするものです。また、それぞれの取組をお互いに結びつけることにより、既存の取組の一層の充実発展を図ることを可能にします。

ESD で育みたい力

○持続可能な開発に関する価値観（人間の尊重、多様性の尊重、非排他性、機会均等、環境の尊重等）
○体系的な思考力（問題や現象の背景の理解、多面的かつ総合的なものの見方）
○代替案の思考力（批判力）
○データや情報の分析能力
○コミュニケーション能力
○リーダーシップの向上

文部科学省ホームページ　(http://www.mext.go.jp/)

ESD の歩み・・・「国連持続可能な開発のための教育の 10 年」

1992 年にリオ・デ・ジャネイロで行われた「環境と開発に関する国連会議」（国連地球サミット）では、「持続可能な開発」が中心的な考え方として「環境と開発に関するリオ宣言」や「アジェンダ 21」に具体的に示され、現在の地球環境問題に関わる世界的な取り組みに大きな影響を与えることになりました。その中に、持続可能な開発の実現に向けて教育が果たす役割も記されています。

その後、2002 年の「持続可能な開発に関する世界首脳会議（ヨハネスブルグサミット）」で当時の小泉総理大臣が持続可能な開発における人材育成の重要性を強調し、「持続可能な開発のための教育の 10 年」を提唱しました。これを受け、同年、国連第 57 回総会決議により、2005 年から 2014 年までの 10 年を「国連 ESD の 10 年（DESD）」とし、ユネスコが主導機関に指名されました。

親たちに・子どもたちに伝える ～和歌山県内での活動～

これまで、和歌山の推進員活動の一環として「出前講座」に取り組んできました。特に“親子向けや子ども向け”の「持続可能な社会を背負って立つ次世代」へ伝えることで“将来の温暖化防止の芽”を育てています。

[“子育て”で増えた家庭の光熱費を実感]

各地で子育て支援サークルが発足しています。結婚、出産というステージを経て、お母さん同士の悩みを共有、また仕事面で社会との再構築を支援する取り組みなど、楽しみながらつながりをもてる場を提供しています。生活の学びの一環としてパソコンを使った簡易診断ではオーダーメイドのお悩み相談も一緒に行います。会に参加した方からは「子育てが始まってから、なんとなく高くなっていると感じていた高熱費がこんなにあがっているとはびっくりです。これから参考にします。」の声も。経済的な視点から CO_2 削減につながる取り組みの一つです。

[学びと遊びをミックスして記憶に残す]

県内各地で、共働き世帯の子どもたちを預かっている活動があります。学校が終わると子どもたちはここに集まり、宿題をしたりレクリエーションを行ったりして親の帰りを待っています。昨年、夏休みを前に海南市の学童保育 NPO 団体からの依頼を受けたことがきっかけで出前授業が活発化しました。これまで、のべ１２クラス・１７４人の子どもたちに伝えることができました。今年は１つのプログラム内で担当者をつくり、複数の推進員講師がひとつの出前を受け持つ方式ですすめました。

こうした取り組みは、なかなか一人でできるものではありません。自らの経験や知識を生かし、参加することによって活動は広がっていきます。たとえば、遊びやゲームなどの進行役、お話をすすめる役、子どもたちの安全を見守りながら一緒に参加する役、ツールの制作や準備を行う役などです。推進員である私たち自身が楽しむことで、参加者に「伝える」「感じる」「行動する」につながっていきます。

レッツecoチャレ
わかやまこどもエコチャレンジ
おうちの人といっしょにやってみよう！

夏号で取り上げた「わかやまこどもエコチャレンジ」の続編です。県内全小学校の４年・５年・６年生（２４５５２人）に教材を配付し取り組んでもらいました。具体的な取組内容は、

『①おうちの中にエコシールをはる（何をするとエコなのか、エコが見えるようになる）。②夏休みの期間中に、家族と一緒に「節電」「節水」「ごみ減量」等のエコ活動に取り組み、結果をチャレンジシートに記録する。③取り組んだエコ活動をエコチャレンジ活動レポートにまとめ、そのレポートを県に応募する。』です。

３８６７人からの応募があり、その中から優秀なレポート２５０点を選出しました。そのレポートを県内の公共施設等に展示し、広く一般に周知・啓発することで、この取組の輪を広げていきました。

活動レポートの中から子どもたちの活動を紹介します。「水をだしっぱなしにしない」「歯みがきはコップで」「電気はこまめに消す」「冷暖房は適温で」「ゴミを分別する」「食べ残しなし」の6つは必須でした。以下は子どもたちのアイデアです。

節水

・トイレの水の大小を使い分ける・米のとぎ汁で水やり・お風呂の水で洗濯・お風呂の水（雨水）で水やり・シャワーを使わない・洗濯すすぎ1回・お風呂にお湯の入ったペットボトルを入れる・トイレのタンクに水の入ったペットボトルを入れる

節電

・冷蔵庫の扉はすぐしめる・お風呂の水（雨水）で打ち水・エアコンをひかえる・扇風機をひかえる・扇風機の前に水の凍ったペットボトルを置く・よしずを使う・グリーンカーテンを使う・うちわを使う・就寝時、保冷剤をまくらにする・庭で食事をする・昼間は電灯をつけない・テレビを見る時間を少なくする・冷房中は１部屋に集まる・昼間は図書館で勉強する・電球をまびく・早く寝る・外で遊ぶ

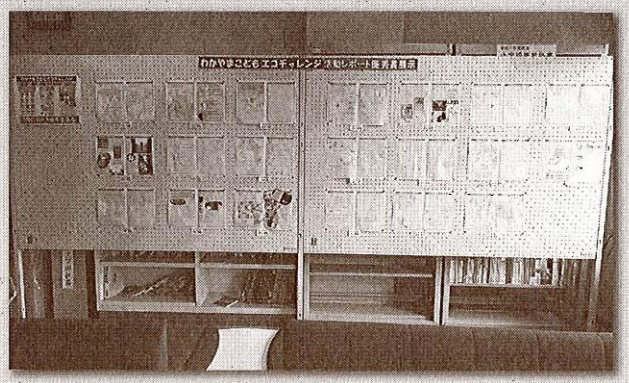
ゴミの減量

・エコバッグを使う・ペットボトルなどリサイクルする・外出時は水筒を持っていく・必要なものだけ買う・生ごみで肥料を作る

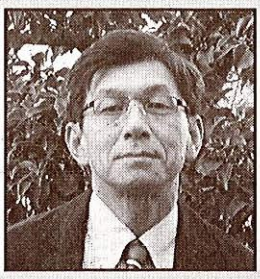
資源の有効利用・その他

・お風呂に続けてはいる・お風呂に家族一緒にはいる・使用済み牛乳パックをまな板にする・広告の裏で漢字練習をする・ティッシュを使いすぎない・太陽光発電・ハイブリッド車に乗る

大人顔負けの効果的な取組があったり、子どもらしい豊かな発想があったり、とても素晴らしい活動がたくさんありました。みなさんも参考にして、エコ活動に取り組んでください。



推進員さん ひょっこり 訪問記⑮



田辺市　松下 精二 さん

推進員１期生の松下精二さんは田辺市生まれの田辺市育ち。大学では機械工学を学び、海外で働く夢を実現すべく、西ドイツ（当時）にある菓子製造機器工場への就職が首尾よく内定しましたが家庭の事情でかなわず、故郷の田辺市役所に務めることとなりました。

同役所では、公民館の主事からはじめて福祉や町づくりの分野などで働きましたが、清掃事務所での仕事で大きな衝撃を受けます。毎日毎日、収集車から吐き出されてうず高く積み上げられるゴミの山を見るにつけ、「このまま放っておいたら、やがて世界がゴミで埋め尽くされてしまうのではないか」と心配になったのでした。それが、環境問題に本気で取り組むきっかけとなりました。

この深刻なごみ問題について市民の集まりなどで話すのも仕事のひとつ。当時、田辺市で活動していた「自然を愛する会」という団体でも話をする機会があり、それを機に同会に入会しての活動も始めました。そのようなときに地球温暖化防止活動推進員の養成講座が初めて開かれることを知り、早速受講したのでした。

講座は全６回。それまでも地球温暖化を取り上げた講演や催しはありましたが、これほど体系的に学べる機会は初めてで、充実した講義に満足したそうです。同じ田辺市で地球温暖化に関心を持つ受講生らと知り合うこともできました。

推進員を委嘱されてからは、田辺市周辺の推進員らとともに地球温暖化対策紀南地域協議会を結成。当初は啓発活動中心に取り組んでいましたが、徐々に薪づくりや薪ストーブの普及など地域の未利用バイオマスの利活用に活動範囲が広がってゆきます。そのなかで専門的な知識の必要性を痛感した松下さんは和歌山大学紀南サテライトに通いバイオマス関連の講義を受講、さらに大学院にも進み修士号を取得しました。

松下さんは田辺市を定年退職する３月下旬から２年間、ＪＩＣＡ（国際協力機構）が派遣するシニアボランティアとして、南太平洋の島国フィジーで廃棄物処理の仕事に携わることが決まっています。定年に加え、家族がそれぞれ独り立ちして心配がなくなったいまが、４０年来の夢を実現するチャンスと考えて応募したのでした。

＝向こうではどんな仕事を？

「分別の指導などが中心かなあ。行ってみないとわからんですけど」

＝いま振り返ってみてこれまでの活動は？

「気持ちはあっても、仕事や周りの条件で出番がなく活動しづらいことも多かった」「他の環境団体とのネットワークももっと強くしたかったけど、共通するものがないと難しいなあと感じました」

＝帰国してからのことは？

「もちろんまた頑張りますよ。それと森林インストラクターの資格にも挑戦したいです」

これからもずっと故郷の森林に関わっていきたいという松下さんでした。

なるほど ザ・ワード

STOP温暖化・焦点の言葉 ⑮

＊地球温暖化をめぐる報道などで、いま焦点となっている言葉を簡単に解説します

エコ

いまどこでも当たり前のように使われている「エコ」という言葉。語感としては「環境に良い」といった雰囲気ですが、英和辞典で「eco」を調べると「ecologyの略」とあるだけです。ecology（エコロジー）は生物と環境の関係を研究対象とする生態学を指す言葉ですが、公害などで生物が暮らす環境が破壊されるなか、これを解決する学問として生態学が注目され、そこから環境問題の解決を目指す立場を広くエコと呼ぶようになったといわれています。和製英語のようにも思われますが、先の英和辞典には eco-product（環境に配慮した製品）のように eco にハイフンをつけて「環境に配慮した○○」といった言葉が並んでおり、英語圏でも「環境に良い」といった意味で通じるようです。

なお、語源にはこれ以外にも諸説あり、ecology を破壊する原因となった economy（エコノミー＝経済）を制御し両立させるという観点からの造語とか、さらには「eco」がギリシア語で「家」を指すことから、一つの家（地球）の中で ecology と economy を共存させるという意味で使用するようなったという説もあります。

イベント案内

●わかやま「節電所」建設プロジェクト2015

夏のとりくみの結果が明らかになります　今回の「節電所大賞」は誰の手に！？

日時 2016年 2月13日(土) 13:30～15:00

場所 和歌山市男女共生推進センター [和歌山市小人町 29]
(あいあいセンター内)

■ お問合せ：和歌山県センターまで

推進員活動をさらにリフレッシュ＆パワーアップするための講座です

●IPCCリポートコミュニケーター養成講座

随時募集

※下記サイトでの 登録 および Eラーニング受講で仮登録完了⇒下記養成セミナー受講で「本登録」となり正式にリポートコミュニケーターとして活動できます。

https://funtoshare.env.go.jp/ipcc-report/
または 検索 IPCC 伝える

日時 2016年 2月25日(水) 10:00～17:00

場所 大阪市中央区 (50 名)(他の開催地あり)

■ お問合せ：和歌山県センターまで

●第12期 和歌山県地球温暖化防止活動推進員養成講座

日時 2016年 3月5日(土) 13:30～16:30

場所 橋本市産業文化会館「アザレア」
[橋本市高野口町向島135]

日時 2016年 3月6日(日) 13:30～16:30

場所 和歌山県民文化会館　403号室

■ お問合せ：和歌山県センターまで

わかやま推進員サイト　運用中！

イベント参加や学習会などのご案内、また情報交流の掲示板として推進員のみなさまの活動の**「見える化」**をすすめるサイトとして運用中です。ぜひアクセスしてください！

http://wenet.info/sui/ または 検索 わかやま 節電 で検索

県センター通信

パリで開かれていた COP21 が終わり、2020 年からの枠組みとして「パリ協定」が採択されました。先日、11 月 29 日に開催されたアースパレード 2015 に参加するため、県センタースタッフ 4 名で一路京都に。オープニングイベントでステージに歌やダンスチームが登場し、会場を盛り上げました。また低炭素への取り組みを実践する様々な団体が発表し、さらなる活動を皆で盛り上げていこうというメッセージが伝えられました。そして総勢 500 名以上が参加し、円山公園から京都市役所までの約 1 キロをパレードしました。私たちも、この熱気を和歌山に持ち帰り引き続き低炭素社会の輪を広げていきたいと思います。

2015 冬号 vol.19

わおん通信

発行／和歌山県環境生活総務課
〒640-8585 和歌山市小松原通1-1
TEL：073-441-2690　FAX：073-433-3590
mail：e0317001@pref.wakayama.lg.jp

編集・お問合わせ／和歌山県地球温暖化防止活動推進センター
〒641-0014 和歌山市毛見996-2
TEL：073-499-4734　FAX：073-499-4735
mail：wenet@vaw.ne.jp

PRINTED WITH SOY INK　R100 この情報誌は古紙配合率100%再生紙を使用しています。